

News letter shunjuza / studio21
京都芸術劇場
ニュースレター



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演
『恋する虜』のためのワーク・イン・プログレス

『ジュネへ応答する8日間』

2007年3月8日(木) ~ 15日(木)

京都芸術劇場 studio21

参加アーティスト: 岩下徹、砂連尾理、白井剛、隅地茉歩、寺田みさこ、山田せつ子(以上 振付家・ダンサー)、
伊藤高志(映像作家)、杉山至(舞台美術家) ワークショップ参加メンバー 他



詳細は3ページへ▶▶▶▶



京都造形芸術大学主催

春秋座アンサンブル・シリーズ

第5回『語らいあう弦の響き —長岡京室内アンサンブル—』

日時:2007年1月27日(土) 開場14:30/開演15:00

森 悠子

会場:京都芸術劇場 春秋座

出演:森 悠子 谷本 華子(ヴァイオリン) 増永 雄記 中田 美穂(ヴィオラ)
五味 敬子(チェロ) 長谷川 順子(コントラバス) 石橋 敬三(マンドリン)

プログラム: F.メンデルスゾーン 弦楽のための交響曲 第4番 ハ長調
R.ガニュー シャコンヌ(森悠子 委嘱作品)
A.ヴィヴァルディ マンドリン協奏曲 ハ長調 RV.425
L.V.ベートーヴェン 弦楽五重奏曲 ハ長調 Op.29
D.ミヨー 弦楽五重奏曲 第2番

※プログラムは変更になることがあります。ご了承ください

昨年の「春秋座アンサンブル・シリーズ」より
(2006.1.21 春秋座)



料金:一般前売2,500円/学生&ユース前売2,000円
当日は各500円増し

春秋座ならではの空間をいかして、アンサンブルの楽しさと醍醐味をお届けするためのコンサートシリーズ。多彩な出演者とバラエティにとんだプログラム、そして楽器の組み合わせの意外性に、毎回好評を博しております。シリーズ最後を締め括る第5回は、長岡京市を拠点に活躍する「長岡京室内アンサンブル」。その緊密で洗練された技術と凝縮力の高さ、独自の様式感覚を持った高度な表現法、音楽性の豊かさは、昨年度のこのシリーズでも絶賛されました。彼らが目指した「長岡京の音色」は、今や日本でも稀有な存在として高く評価されています。



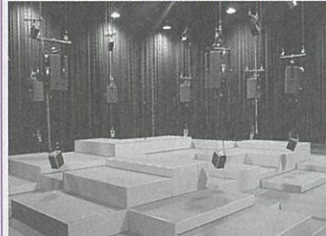
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター協力公演

ATAK NIGHT 3 [anti fourier / instability]

Pan sonic



インスタレーション作品 [filmachine]より



渋谷慶一郎



日時:2007年2月20日(火) 開場18:30/開演19:00

会場:京都芸術劇場 studio21

出演:Pan sonic、Goem (a.k.a.Frans de Waard)
渋谷慶一郎(ATAK)、evala(ATAK, port)

料金:一般前売2,500円、一般当日3,000円/学生(前売・当日とも) 2,500円

近年の美術/メディアアートシーンにおいて、サウンドの占める位置は非常に大きくなっています。それはアートという枠組みにおいて、本来、同等のポテンシャルを持ちうる視覚と聴覚に対する根本的な問いかけでもあり、同様に、音そのものをアートとして提示することへの追求は、国内外を問わず活発に行われています。

今回のATAK NIGHT 3 [anti fourier/instability(非フーリエ/不安定性)]では、パーソナルテクノロジーの発達に後押しされる形で急速な進化を続けるサウンドアートが、ともすると陥りやすい計算可能な安定領域(フーリエ的思考)やミニマリズム、構造主義への傾斜を批判的に検証し、コンサート形式で、そこからの逸脱へ向かうべく新たな可能性を探求します。

タイトモダンをはじめ世界各地の美術館で作品を発表し、坂本龍一やビョークらとのコラボレーションが話題のフィンランド出身のデュオPan sonic、オランダにて音楽制作/批評/レーベル運営など多岐に渡る活動を行い、ヨーロッパのサウンドアートを牽引するGoem、音楽作品のみならずインスタレーション作品でも高く評価され、高橋悠治や池上高志、藤幡正樹らとのコラボレーションなど目覚ましい活躍を続ける渋谷慶一郎といった、サウンドアートの現在を代表するに相応しい顔ぶれによるライブ・パフォーマンス。テクノロジーとサウンドの臨界点ともいえる本コンサート、ぜひお見逃しなく!

左京区民ふれあい事業実行委員会主催 **第11回左京区民文化フェスティバル**

日時: 2007年1月21日(日) 開場12:30/開演13:00
会場: 京都芸術劇場 春秋座 入場無料

左京区内で自主的な文化・芸術活動をしているグループが、歌やダンス、楽器演奏等を披露します。皆様の御来場をお待ちしています。

出演予定団体(五十音順)

聞韶(うえんしゃお)二胡楽団/江阪ジャズダンススタジオ/花林会 一乗寺サークル(電機大正琴)/京都手をつなぐ育成会「よさこい隊」(よさこい鳴子踊り)/げんきGIRLS(エアロビクス)/左京女性連絡協議会民踊部(左京音頭)/そよかぜ&さざなみ(電機大正琴)/高木千代ジャズダンススタジオ/「多国籍バンド」クラブ/NEW KINGS(アカペラ)/FRYSKYCM(ストリート系ダンス)/フレンドリー(電機大正琴)/ラプリーフラ(フラダンス)/レイモミ・フラ・メイツ山下良子フラスタジオ(フラダンス)/和太鼓 恵
問合せ: 左京区役所まちづくり推進課 (tel 075-771-4246)



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演『恋する虞』のためのワーク・イン・プログレス『ジュネへ応答する8日間』

日時: 2007年3月8日(木) ~ 15日(木) (左記期間の内、公開日時は後日発表します)
会場: 京都芸術劇場 studio21

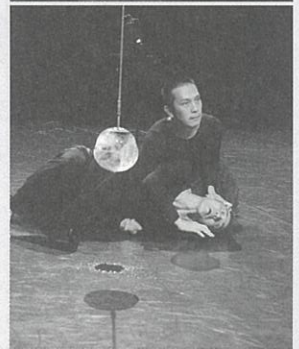
参加アーティスト: 岩下徹、砂連尾理、白井剛、隅地菜歩、寺田みさこ、山田せつ子(以上 振付家・ダンサー)
伊藤高志(映像作家)、杉山至(舞台美術家)
ワークショップ参加メンバー 他

水底を手探りで探し求めていくようなこのプロジェクトにも、ときに**恩寵**のような瞬間があり、ほんのささやかな発見に目を輝かせ、糸を手繰るようにジュネの輪郭と向かいあって来ました。様々な人々との出会いが生まれ、羊歯が伸びるようにダンス、映像、美術、光、音楽そして言葉の往来がはじまりました。11月の公開セミナーにも多くのご意見を頂戴し励みになりました。ジュネがジャコメッティの粗末なアトリエで、揺れるパレスチナの土地で見つめたものに応答できる身体がどう浮かび上がってくるか、3月皆様と共有する場にむけて作業を進めています。

山田せつ子

舞台芸術研究センターでは、ダンサー・コレオグラファーで主任研究員(本学教授)の山田せつ子を中心に、フランスの作家ジャン・ジュネ(1910-86)の後期作品に基づくダンス公演『恋する虞』に向けて、「創作」と「研究」が緊密に結合した共同プロジェクトを展開しています。単に物語を素材や口実にしてダンス作品をつくるのではなく、ジュネの言葉からどんな身体性や思考の運動を読み取ることができるのか、そしてそれを現在の私たちが置かれている社会的、歴史的、政治的な状況へとどう結びつけていくことができるのかを実践的に模索し、アクチュアルな考察と問いかけを通して、現代におけるダンス表現の根源的な可能性を見出していこうとする試みです。

今回2007年3月には、約一年にわたり取り組んできた成果をこのプロジェクトの中間発表として、約1週間かけて様々なプログラムを発表します。①ダンスのプレゼンテーション、②映像・美術のプレゼンテーション、③ワークショップの公開、④トークセッションなど、これまで辿って来たプロセスをそのままに観客の皆さんに触れて頂き、更にこのプロジェクトを加速させていきたいと考えています。



11月公開セミナーより 撮影:清水俊洋

申し込み方法 京都芸術劇場チケットセンター(平日10~17時) TEL 075-791-8240
JCDNダンスリザーブ <http://dance.jcdn.org/>

※各プログラムへの入場・参加申込は、2007年1月中旬開始の予定です。詳細は舞台芸術研究センターウェブサイト、および告知チラシにて発表します。案内をご希望の方は、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

主催/お申し込み/お問合せ 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
TEL 075-791-9437 e-mail info@k-pac.org URL <http://www.k-pac.org/>

近畿高等学校演劇連盟/京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 主催

高校演劇コンクール近畿大会優秀校 第6回春秋座招待公演『演じる高校生』

日時:2007年1月14日(日) 開場13:30/開演14:00

会場:京都芸術劇場 春秋座 料金:一般 1,500円 学生&ユース 500円 当日も同額

高校演劇コンクール近畿大会での優秀校を招いての「演じる高校生」も今回で6回目となりますが、毎回、花道や道など春秋座の舞台機構をうまくいかした演出で、コンクールとは一味違う舞台を見せてくれます。今年も11月24・25・26日に兵庫県立芸術文化センターで近畿地区大会が開催され、私立追手門学院大手前高等学校(大阪市)と兵庫県立西宮今津高等学校の2校が春秋座に招待されることとなりました。

私立追手門学院大手前高等学校の「あげと一心」(作:中條岳青<顧問>)は卒業旅行にアメリカまで出かけた5人組の物語。かれらは何もない駅に「途中下車」してしまいます。幕開きより繰り広げられる笑わずにはいられない軽妙なキャッチボールと5人の絶妙のコンビネーションが調和して、いつの間にか5人の織り成す世界の中に引き込まれていきます。さらには不思議な精霊も登場し、5人の物語は編まれていく。そして最後に彼らがたどり着く場所はどこなのか…。愉快で軽妙な会話と滑らかな動きをベースに、それぞれに抱える問題を調味料としてさらに不思議さを隠し味にした、楽しい中にもほろりとさせる作品です。

兵庫県立西宮今津高等学校の作品は「太陽の箱」(作:春山昌紀<生徒>)。舞台上で繰り広げられるのは、南北朝時代の天子や内侍が司る妖しい世界の物語。幕開きの瞬間からその独特な美の世界に否応なく引きずり込まれます。血が滴るような赤い太陽のもと、3つの箱が日くありげに置かれ、床一面に夥しい深紅の蝶がばらまかれている。その上を妖しい装をした天子や女官たちが蝶が舞うごとく巡り動く。荘厳な音楽に導かれ、艶やかだが暗い香りを漂わす美しさのもと、物語は衝撃的な結末へと向かいます。印象的な美しさを持った驚くべき異色の作品です。感受性豊かな世代の高校生の目には、今の社会はどのように写っているのか、彼らが「演劇」をとおして何を表現し訴えかけていきたいのか…。是非ご覧下さい。



写真:(左)私立追手門学院大手前高等学校「あげと一心」/ (右)兵庫県立西宮今津高等学校「太陽の箱」
[第41回近畿高等学校演劇研究大会 2006.11.24-26 兵庫県立芸術文化センター]

『第21回歌舞伎フォーラム』

日時:2007年2月13日(火) 開場13:30/開演14:00

会場:京都芸術劇場 春秋座

入場料:S席一般前売4,500円/A席一般前売4,000円 ※全席指定
※学生&ユース1,000円割引 ※当日500円増

演目:第一部 歌舞伎に親しむ「歌舞伎の美」

第二部 歌舞伎舞踊「俄獅子」

第三部 歌舞伎舞踊「釣女」

第四部 歌舞伎「大石妻子別れ」

出演:中村歌女之丞

中村京妙

中村又之助(予定)

ほか



歌舞伎をわかりやすい解説コーナーと楽しいお芝居&舞踊でお届けする歌舞伎フォーラム公演。第一部ではお客さまに舞台にあがっていただき、「歌舞伎講座」を役者によるワークショップで体験していただきながら、解説を行ないます。他にも祭囃子で幕があく江戸吉原の賑やかな踊り「俄獅子」、大石内蔵助が討入りに行くことを妻子に告げるときたつぷりの芝居「大石妻子別れ」など、たつぷりと歌舞伎をお楽しみいただける内容となっています。ぜひ、ご来場ください。

二〇〇六年度

和太鼓恵 三月 卒業公演

日時:2007年3月11日(日) 開場14:30/開演15:00

会場:京都芸術劇場 春秋座 入場無料

和太鼓 恵(しん)は瓜生山学園の学生で構成されており、「心・技・体」を柱とし活動しています。本公演は今年度の集大成となる公演です。

太鼓という奥深い楽器に出会い、自分と向き合い、仲間を支えられながら今日まで歩いて来ることができました。メンバー一人ひとりの溢れんばかりの想いと感謝の気持ちを、強く、優しく響く音色にのせ、全身全霊でお届けします。

たくさんの方々のご来場、心よりお待ちしております。



京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科主催
京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

モーリ・マスク・ダンスPart11 『極彩色』

日時: 2006年10月21日(土) 16:00開演/18:00開演 ※2回公演
会場: 京都芸術劇場 studio21

10月21日(土)京都造形芸術大学studio21にてモーリ・マスク・ダンスPart11『極彩色』が開催されました。モーリ・マスク・ダンスは、京都芸術劇場毛利臣男芸術監督の戯曲・構成・演出・美術・衣裳のもと本学空間演出デザイン学科3年生とプロフェッショナルとのコラボレーションによるパフォーマンスです。マスクによって顔を隠し、言葉を介さずに繰り広げられる独特の舞台空間は、毎年人気を博しています。本学での公演は2000年の『千年花』から始まり、今年度の『極彩色』で第7回目を迎えました。

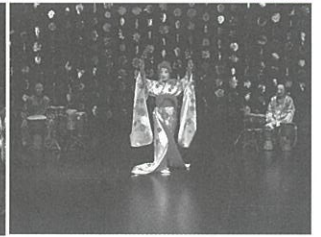
街に行く「ぼろの群像」から森が生まれ、「笑いの人」によって森は花に覆われ平和に包まれていた。「怒りの親玉」が現れ、争いが起き、森は危険な姿へと変貌していく。しかし、「平和の女神」によって、怒りに満ちた世界はやがて消え、平和をとりもどし、楽しく華やかな世界になった。

「笑いの人」・「怒りの親玉」・「平和の女神」に日本舞踊紫派藤間流の若手ホープ・藤間信乃輔氏が3役を演じ、モーリ・マスク・ダンスの音楽でお馴染みの越智ブラザーズは「笑いの人」に扮し、森が変化していく様子を表現したパーカッション演奏が、会場に響き渡っていました。

撮影:出口綾



撮影:出口綾



森を表している「ぼろの群像」の色とりどりの衣裳は照明が当てられると、違った色が生まれ、私たちの目を楽しませてくれました。

フィナーレでは「振袖の人々」で埋め尽くされた舞台上はまさに極彩色。ファッションショーを見ているようで、越智ブラザーズの演奏に合わせて思わず一緒になって踊り出したくなるくらい感情が高ぶりました。

言葉を介さずとも、体の動きや越智ブラザーズの演奏を通して、楽しい場面では笑い声が、争いの場面では怒声、泣き声が聞こえてきそうな雰囲気を感じます。登場人物たちが観客に近づく演出、映像からは感じられない緊張感、これはライブでしか味わえないと思います。モーリ・マスク・ダンスを1度観劇すれば、いつの間にか、その世界観に吸い込まれ魅了されると思います。本学から日本中に、そして世界中にモーリ・マスク・ダンスが広がっていく事を願っています。

劇場企画運営室 上田香織

京都造形芸術大学主催 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

『花-Hana-』

日時: 2006年11月26日(日) 15:00開演 会場: 京都芸術劇場 春秋座

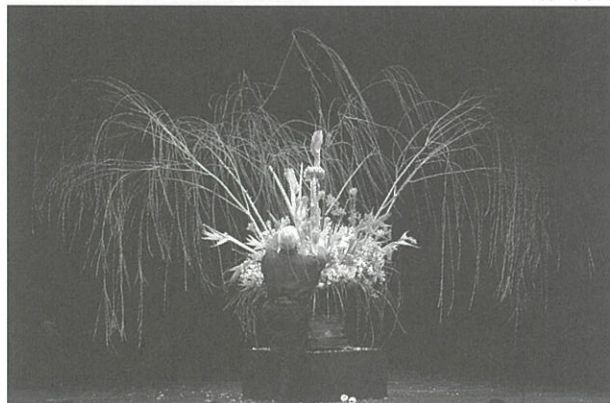
同時開催: 花-Hana- 栗崎昇の世界展 日程: 2006年11月13日(月)~26日(日) 会場: 京都造形芸術大学 人間館1F

11月26日(日)2006年度毛利臣男芸術監督プログラムのメイン公演である『花-Hana-』が京都芸術劇場 春秋座で公演された。

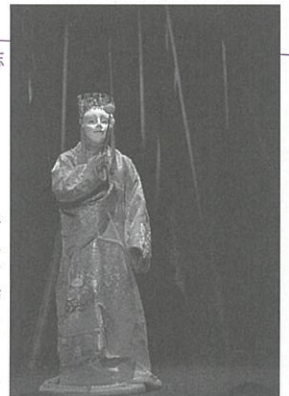
作品は、毛利芸術監督の戯曲・構成・演出・美術の下、主演に花師 栗崎昇氏、音楽・バンドネオン演奏 金大偉氏、和太鼓作曲・演奏 和太鼓研究センター高木克美教授と恵炎、恵という大変豪華な顔ぶれだ。

メイン公演にふさわしく前売りも、急遽発売された当日席までも完売。満員御礼の805人が春秋座に訪れた。開演待ちのホワイエは、とても華やかな雰囲気が、それもそのはず、京都だけではなく東京や沖縄、ベルギー等、日本各地いや世界各地から今回の公演を待ち望んだ方がたくさんいらしている。

撮影:堀川高志



撮影:堀川高志



場内は、月夜の海を思わせる青い空間と金氏による音楽が広がる。雨音と雷が轟き開演。鳥屋より10人程の和太鼓 恵の面々が登場。若さあふれる清々さと生命の息吹を讀めるような太鼓の鼓動が場内に響きわたる。変わって太鼓の音に導かれる様に、花道より美しい衣裳を纏う女神が登場。一舞し早変わりすると、花師 栗崎昇が登場。花師と和太鼓 高木克美、恵炎とのコラボレーションによる生け花パフォーマンスが始まる。栗崎氏のパフォーマンスは、花を見せるのではなく、花を生けるプロセスを見せることが目的である。花を生ける姿には生命の躍動と人生を感じさせる。静かに時には激しく、花と戯れ語り、時には喧嘩するように。花は新たな生命と魂を吹き込まれ各々が生き生きと主張する。大きな柳が花器に何本も投げられると完成し深紅の照明に照らされる。この世のものとは思えない妖しい美しさ。心音の様な和太鼓の音が場内に響く頃、女神が登場し曲を奏でる(実はこの時の女神は金氏である。)最後には、再び和太鼓が激しく叩かれる。生と死の美を謳歌するかの様に舞台は終わりを迎えた。

終演後、花の美しさの虜になった人々が舞台上を眺め続けている、あまりにも美しい光景を見たときは、声を出すことすら出来なくなる。劇場の外に出ると京都の街は雨が降っていた。まるで、全ての出来事がこの日の公演の為にあるかの様に。

劇場企画運営室 倉岡未来人

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演『恋する虜』のための公開セミナー 「裏切りとしての身体 ―ジュネの言葉とダンスの会う場所」

舞台芸術研究センターでは、フランスの作家ジャン・ジュネの後期作品に基づくダンス公演『恋する虜』(2008年春に予定)に向けて、「創作」と「研究」が緊密に結合した共同プロジェクトを展開しています。今回の「公開セミナー」は、これまでの研究会やリハーサルの成果を観客の視線を通して検証し、今後の方向性を探る目的で開催されました。第一部の「公開リハーサル」では、ジュネの言葉からダンスの身体を引き出す試行とともに、映像や美術や音楽による実験がさまざまに織り込まれ、きわめて刺激的な舞台空間が開示されました。当初の想定を超えて「公演」に近い完成度を示すものとなったのは、参加したアーティストたちの強い意欲によるものであり同時に、ジュネのテキストに取り組むことが、「リハーサル」と「公演」の関係を根底から問いなおすことを促した結果でもあります。第一部の痕跡を留めたまま同じ空間で行われた第二部のレクチャーも、ダンスと言葉の関係をめぐる理論的考察が、具体的な実演から喚起された思考と結びつくことによって、その場でしか起こりえない経験が得られたと考えています。

日 時: 2006年11月5日(日)
第1部: 公開リハーサル[参加アーティストによる、創作過程のプレゼンテーション]
第2部: フォーラム「ジュネへの応答―(白)のイマージュからダンスの身体へ」
会 場: 京都芸術劇場 春秋座 studio21
出 演: 岩下徹、砂連尾理、寺田みさこ、山田せつ子(振付家・ダンサー)
伊藤高志(映像作家) 杉山至(舞台美術家)
宇野邦一(現代フランス文学・思想) 鶴飼哲(現代フランス文学・思想)
八角聡仁(批評家) 森山直人(批評家)

セミナー終了後、さっそく翌日からダンサー、スタッフは、今回のセミナーを通して浮かび上がった問題点などについて長時間のミーティングを重ね、2007年3月に予定している「ワーク・イン・プログレス公演」に関しても、その内容と位置づけを改めて検討しなおしているところです。引き続きご期待ください。



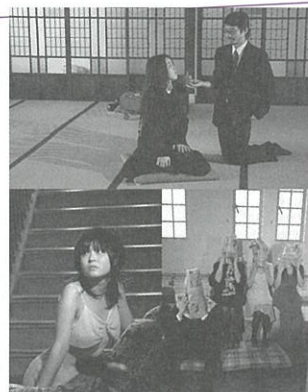
11月公開セミナーより 撮影: 清水俊洋

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 『The Bridge Project』

- 〈ワークショップ〉 ■ ロケ地での撮影 2006年11月18～24日、27～29日 於: 元立誠小学校(京都市内・木屋町)
参加者: 本学学生、卒業生、外部アーティストの約35名
※フォアマンとハヴィランド演出による撮影日各3日、参加者自身の演出を生かした撮影日1日、撮影前後にディスカッション3日
- 〈関連企画〉 ■ 公開レクチャー「The Bridge Projectをめぐって」 2006年11月25日
於: 京都造形芸術大学 映像ホール スピーカー: リチャード・フォアマン、ソフィー・ハヴィランド
聞き手: 内野儀
- リーディング公演「パーマネント・ブレイン・ダメージ」 2006年11月25日
於: 京都造形芸術大学 青葱館Aスタジオ
作: リチャード・フォアマン
演出・美術: 杉原邦生 出演: 池戸宣人、黒田政秀、谷本健人、中本章太
- 音楽パフォーマンス 2006年11月26日
「Music Bridge Night 巻上公一・イクエ・モリによる音楽パフォーマンス―リチャード・フォアマンのテキストを使って」
於: 京都芸術センター 出演: 巻上公一、イクエ・モリ

The Bridge Projectは、NY在住の2人の劇作・演出家、リチャード・フォアマンとソフィー・ハヴィランドによる国際プロジェクトとして、2006年11月までにオーストラリア、ポルトガル、イギリス、ドイツ、京都にて、アーティストや大学と協働しながら「舞台作品での使用」を強く意識した映像素材を撮影するワークショップを行いました。アジアで唯一の開催地・京都では、撮影ワークショップのみならず、一般公開の関連企画として、プロジェクトとリチャード・フォアマンに関するレクチャー、リーディング公演、音楽パフォーマンスを行い、彼らの活動を多角的に紹介しました。NYの前衛演劇界で40年にわたり活躍を続け、巨匠や鬼才の名を欲しいままにしているリチャード・フォアマンが、なぜ今、The Bridge Projectを通して、作品の中に映像を取り入れようとするのか。「映像の中で起こることは、間違いや失敗もあるし、何故だか分からないことも多いが、それは同時に現実(リアル)なのだ。」フォアマンは、その言葉をさらに広げ、映像と生身の俳優が演技をする舞台との関係を示唆します。「私は舞台作品の中で、舞台奥のホリゾン幕に世界各国で撮影をした素材を映していく。その前で、役者たちは映像とは全く関係のない演技をする。それは即ち、映像は人間の手の届かない、人を超越した何かであり、その前で生身の人間が訳の分からない(クレイジーな)舞台を繰り広げるのだ。」「そこには何の関連性もない。ただ、それが現実だ。」

一方ハヴィランドは、自らの書いたテキスト「モノログ」をもとに、参加者の意見も多分に取り入れ、数多くの短いシーンをつくり出していました。彼女はそれらを繋ぎ合わせてひとつの長編フィルムやインスタレーション作品にしたいと意気込みを語ってくれました。そして、The Bridge Projectの大きな特徴である「撮った素材はどれであれ、参加者全員が今後の舞台作品や映像作品の中で使用してよい」という、敢えて著作権を放棄するという本プロジェクトの参加権利を生かして、日本の参加者たちは今後どのような作品を生み出していくのでしょうか。本学学生や卒業生にとどまらず、関西や東京で活躍する演出家や俳優が多く参加した今回のプロジェクト。彼らのうちの何人かは、すでに、自身の作品にThe Bridge Projectの映像素材を使用する青写真を持っているようです。京都でのアーティストや参加者の出会いを「種」にして、今後、素材のアーカイブ化や新しい作品の創作など、次なる展開がまだまだ期待されるThe Bridge Projectを、お楽しみに!



ワークショップより 撮影: 清水俊洋



音楽パフォーマンスより 撮影: 清水俊洋



リーディング公演より 撮影: 相模友士郎

日本芸能史

— 受講生募集中 —

日 程：前期 2007年4月9日～7月9日(全13回)
後期 2007年10月1日～2008年1月28日(全13回)
毎月月曜日 16:10～17:30
会 場：京都芸術劇場 春秋座[本学人間館NA棟1階]
受講料：各期10,000円

日本では多様な伝統芸能が伝えられてきました。この講座では、第一線で活躍している専門家に実演をまじえながら、解説をくわえていただきます。2007年度のキーワードは前期は〈上方と周辺の芸能〉、後期は〈江戸と周辺の芸能〉。あらたな視点で芸能史を体験することで伝統芸能の歴史と創造のあり様がみえてくるはずです。

コーディネーター…田口章子(京都造形芸術大学 芸術学部教授/舞台芸術研究センター主任研究員)

[前期]〈上方と周辺の芸能〉

4月 9日	「上方と周辺の芸能・総論」	諏訪春雄
4月 16日	「御神楽—実演」	伏見稲荷大社(解説—木戸敏郎)
4月 23日	「聲明—実演」	天台宗総本山比叡山延暦寺 法儀音律研究部(解説—木戸敏郎)
5月 7日	「落語—実演」	林家染丸
5月 14日	「絵解き—実演」	関山和夫
5月 21日	「平曲—実演」	今井勉(解説—関山和夫)
5月 28日	「壬生狂言—実演」	壬生大念仏講員
6月 4日	「上方舞—実演」	山村若
6月 11日	「能—実演」	片山清司
6月 18日	「京舞—実演」	井上八千代
6月 25日	「文楽—実演」	竹本綱大夫・鶴澤清二郎
7月 2日	「狂言—実演」	茂山忠三郎・茂山良暢
7月 9日	「琵琶—実演」	上原まり

[後期]〈江戸と周辺の芸能〉

10月 1日	「江戸と周辺の芸能・総論」	諏訪春雄
10月 15日	「日本舞踊—実演」	坂東温子(聞き手—田口章子)
10月 22日	「歌舞伎舞踊の大道具—理論」	中田節
10月 29日	「説経浄瑠璃—実演」	若松若太夫
11月 5日	「長唄—実演」	今藤政太郎
11月 12日	「常磐津—実演」	常磐津都丸蔵
11月 19日	「清元—実演」	清元清寿太夫
11月 26日	「歌舞伎—理論」	田口章子
12月 3日	「鳴り物—実演」	藤舎呂船
12月 10日	「歌舞伎(脚本)—理論」	石川耕士
12月 17日	「講談—実演」	宝井馬琴
1月 7日	「万歳(尾張万歳)—実演」	北川幸太郎
1月 28日	「歌舞伎(役者絵)—理論」	武藤純子

*都合により、講師・会場が変更になる場合があります。予めご了承ください。

舞台芸術研究センターのコーディネートによる公開連続講座「日本芸能史」では、本学の授業を一般公開します。申し込みは常時可能です。ぜひご参加ください。

受講手続きについて

- ◎受講資格：学習意欲のある方なら、どなたでも受講していただけます。
- ◎受付申込：2007年2月1日より常時。
- ◎お電話またはFAXでご予約ください。本学の指定の申し込み用紙をご案内いたします。所定事項を記入の上、本学宛、郵送、FAXまたは直接持参にてお申し込みいただけます。その際、手続きは申し込み日から一週間以内にお願ひいたします。一週間以内に手続きやご連絡のない場合は、キャンセル扱いとさせていただきます。

受講に際してのお願い

- ◎一旦納入いただいた受講料は返還いたしかねますので、予めご了承ください。
- ◎開講日時は記載の通りですが、変更やお知らせのある場合は事前に会場、郵便、電話でご連絡します。
- ◎講師の都合や天災、交通機関の不通等によりやむを得ず休講になった場合、補講はできかねます。また、その際の受講料は返還いたしかねますので、予めご了承下さい。
- ◎当センターでは、講義を記録するため撮影を行います。それらをパンフレット、大学案内等の広報用に使用することがあります。予めご了承ください。

〈本学の学生へ〉

この講座の受講希望者は、2007年度履修要項を参照の上、他の科目と同様に登録手続きを行ってください。(通信教育部通学部共)

〈他大学の学生へ〉

この講座は、大学コンソーシアム京都の単位互換科目(他大学の科目を履修し所属大学の単位として認定する制度)となっています。大学コンソーシアム京都加盟大学の学生については、3月下旬に各大学に配布される2007年度単位互換履修生募集ガイドを参照の上、所属大学を通じて申し込みを行ってください。

お問い合わせ・資料請求(2007年2月1日より受付開始)

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学

瓜生山エクステンションセンター(人間館NA棟1階)

TEL (075)791-9124/FAX (075)791-9127

受付：平日…午前9時～午後5時(土曜/午後4時まで)

[休日：日曜・祝日・入学試験実施日・年末・年始]

— 瓜生山草 —

劇場に観客が入る。歌舞伎の台詞には「観客」という言葉は無い。「見物衆」と呼ばれる。

この言葉には代金は後払い、という意味があるだろう。今でも後払いというスタイルをとっているところもあるようだが、そうすると作品に自信が無いように思われる。料金を設定すると高いと言われ、観終わった後にも高いと言われたり、なんと難しい。

観客のリピート率は何パーセント以上になると成功と呼ばれるのだろうか？満席では50%リピーターがいれば、次回には多分お一人では来られないだろうから、また満席になる。甘いかな。

どんなに素晴らしい作品でも観客全員が心から感動することは有り得ないだろうし、創造するのはもっと難しいだろう。人間は完全無欠じゃないから、見方によっては抜ける部分が出てくる。

人間が100人しかいない時に99人と親友になれば素晴らしいが、とても無理だ。50人の人と友情が結べれば御の字ではないだろうか。

同様に、作品を創造する時に全世界の50%の人に感動してもらいたいと思えば、プレッシャーも覚えず伸びやかな作品が創れるのではないだろうか。勿論それ以上を望むのは当たり前だ。パーセンテージは数字の目安でしかないから、実際はどうすればいいかわからない。100%頑張れば50%になるのかどうか。

それが分かれば創造の苦勞や、制作の苦勞はない。ただ闇雲に頑張っても疲れるだけだし、目安をつくっておけば、次の創造に繋がらるだろう。

(岩田)

京都芸術劇場
ニュースレター
Vol.3
2007.1.

発行…京都芸術劇場
発行人…毛利臣男 太田省吾
編集人…岩田廣明
デザイン…清水俊洋
発行日…2007年1月1日

月	日	曜日	開演時間	催し物	内容	会場	問合せ先	チケット販売
1月	9	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	〈舞う芸と踊る芸〉をキーワードに、日本伝統芸能の第一線で活躍している専門家に、実践をまじえながら解説していただく公開授業。コーディネーター：田口章子 【後期】第11回「歌舞伎(劇場論)」 理論/木戸敏郎	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL 075-791-9124	常時受付 各期 10,000円 ※受講申し込みは問合せ先へ
	11	木	19:00	映像・舞台芸術学科舞台芸術コース2006年度卒業制作公演 「演劇の害について」	舞台芸術コース四期生、吉井貴則による一人芝居。チェーホフ作「タバコの害について」、岡田利規作「マリファナの害について」、吉井貴則作「吉井の害について」の三部作。	春	映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353 制作(マツタ) TEL 090-5115-0447	【発売中】一般・学生 前売500円 当日800円
	12	金	17:30	近畿高等学校演劇連盟/舞台芸術研究センター主催 高校演劇コンクール近畿大会優秀校 第6回春秋座招待公演 「演じる高校生」	近畿大会優秀校2校を招いての「演じる高校生」。 演劇を通じて、高校生が何を表現し、訴えかけていきたいのか。ぜひご覧ください。 出場校：私立追手門学院大前高等学校「あげとーふ」(大阪市)、兵庫県立西宮今津高等学校「太陽の箱」(兵庫県)	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	【発売中】一般1,500円 学生&ユース 500円 ※当日料金も同額
	14	日	14:00	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第12回「神楽(実演)」 石見神楽温泉津舞子連中	春	※1月9日の欄をご参照下さい	
	16	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第12回「神楽(実演)」 石見神楽温泉津舞子連中	春	※1月9日の欄をご参照下さい	
	19	金	19:00	映像・舞台芸術学科山田せつ子クラス授業発表 ダンス公演「ひねもす おどれば」	あやくし生臭いのだ。この匂いがからだという器とどうやって折り合いをつけていくことができるのか、どのようにしてダンスが成立してくるか。出演・スタッフ：映像・舞台芸術学科3期生 指導：山田せつ子	S	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353	【発売中】一般・学生 前売500円 当日800円
	20	土	15:00	第11回 左京区民文化フェスティバル	左京区内で自主的な文化・芸術活動をしているグループが、歌やダンス、楽器演奏等を披露します。皆様のご来場をお待ちしています。	春	左京区役所まちづくり推進課 TEL 075-771-4246	入場無料
	21	日	13:00	映像・舞台芸術学科舞台芸術コース2006年度卒業制作公演 「微 プレッシュドウッド」	様々な空間において舞台という「ものづくり」を行なう創作集団、chikinによる、第4弾卒業公演。 作・演出・出演：[chikin=小澤薫、越本佳世子、豊山佳美、山村麻由美]	S	映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353 制作(タナカ) TEL 090-9250-9609	一般・学生 前売500円 ※chikin割引あり。 当日800円 詳細は問合せ先まで。
	26	金	14:00/19:00	春秋座アンサンブル・シリーズ(全5回)第5回公演 「語りあふ弦の響き—長岡京室内アンサンブル—」	「長岡京室内アンサンブル」が春秋座アンサンブル・シリーズの最後を締め括ります。その緊密で洗練された技術と凝縮力の高さ、独自の様式感覚を持った高度な表現法など「長岡京の音色」をお楽しみください。	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 京都芸術劇場 TEL 075-791-9437	【発売中】一般2,500円 学生&ユース2,000円 友の会2,000円 ※当日各500円増 リビート割引あり
	27	土	15:00	映像・舞台芸術学科舞台芸術コース2006年度卒業制作公演 「SM」	作・演出：相模友士郎、出演：岩崎小枝子、渡守希、齋江翔大朗、殿井歩(舞台2回)	S	映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353 制作(ヤマグチ) TEL 090-4157-9190	一般 前売800円 当日1,000円 学生 前売500円 当日800円
2月	2	金	14:00/19:00	映像・舞台芸術学科舞台芸術コース2006年度卒業制作公演 「SM」	作・演出：相模友士郎、出演：岩崎小枝子、渡守希、齋江翔大朗、殿井歩(舞台2回)	S	映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353 制作(ヤマグチ) TEL 090-4157-9190	一般 前売800円 当日1,000円 学生 前売500円 当日800円
	3	土	13:00	第21回歌舞伎フォーラム公演	豪華、歌舞伎四本立て。わかりやすい解説と楽しいお芝居・舞踊が満載の歌舞伎公演です。 第一部：歌舞伎に親しむ「歌舞伎の美」 第二部：歌舞伎舞踊「俄獅子」 第三部：歌舞伎舞踊「釣女」 第四部：歌舞伎「大石妻子別れ」	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 大阪公演事務局 TEL 06-6574-6911	【発売中】前売S席 一般4,500円 学生3,500円 前売A席 一般4,000円 学生3,000円 ※当日各500円増
	13	火	14:00	映像・舞台芸術学科 松田正隆クラス授業発表公演「結婚」	松田正隆がヴァイトルド・ゴンブローヴィッチの戯曲「結婚」を演出。 出演・スタッフ：映像・舞台芸術学科学生	S	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353	入場無料
	14	水	18:00	舞台芸術研究センター協力公演 ATAK NIGHT 3 [anti fourier/instability]	テクノロジーの発達に伴い、急速な進化を遂げるサウンドアートの世界では、現在何が行なわれているのか?さらなる可能性を探るべく、Pan sonic(フィンランド)、Goem(オランダ)、渋谷慶一郎(ATAK)、evala(ATAK, port)がライブ・パフォーマンスを展開します。	S	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 ATAK info@atak.jp	【発売中】一般・学生 2,500円 ※一般のみ当日500円増
	15	木	18:00	映像・舞台芸術学科 松田正隆クラス授業発表公演「結婚」	松田正隆がヴァイトルド・ゴンブローヴィッチの戯曲「結婚」を演出。 出演・スタッフ：映像・舞台芸術学科学生	S	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353	入場無料
	16	金	13:00	舞台芸術研究センター協力公演 ATAK NIGHT 3 [anti fourier/instability]	テクノロジーの発達に伴い、急速な進化を遂げるサウンドアートの世界では、現在何が行なわれているのか?さらなる可能性を探るべく、Pan sonic(フィンランド)、Goem(オランダ)、渋谷慶一郎(ATAK)、evala(ATAK, port)がライブ・パフォーマンスを展開します。	S	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 ATAK info@atak.jp	【発売中】一般・学生 2,500円 ※一般のみ当日500円増
	20	火	19:00	映像・舞台芸術学科観世楽夫・河村博重クラス 授業発表公演 能「藤戸」狂言「彦市ばなし」	源平合戦の裏側で犠牲となった市井の親子の悲しみを描いた「藤戸」と、木下順二の名作喜劇「彦市ばなし」を本学学生が演じます。演出：観世楽夫 出演・スタッフ：映像・舞台芸術学科学生 ※能楽部による仕舞あり	春	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353	入場無料
23	金	時間未定	映像・舞台芸術学科観世楽夫クラス授業発表公演 近代能楽集「綾の鼓」	三島由紀夫が同名の能楽を基に「老いらくの恋」の行方を描いた秀作を、観世楽夫の演出で本学の学生が演じます。作：三島由紀夫 演出：観世楽夫 出演・スタッフ：映像・舞台芸術学科学生	春	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 TEL 075-791-9353	入場無料	
24	土	時間未定	二〇〇六年度 和太鼓恵 三月 卒業公演	瓜生山学園の学生で構成された和太鼓チーム、和太鼓 恵(しん)による自主公演。今年度の集大成として、メンバー一人一人の想いと感謝の気持ちを、強く優しく響く音色にのせ、全身全霊でお届けします。	春	京都造形芸術大学和太鼓研究センター TEL 075-791-9145(平日10時~18時)	入場無料	
3月	11	日	15:00	二〇〇六年度 和太鼓恵 三月 卒業公演	瓜生山学園の学生で構成された和太鼓チーム、和太鼓 恵(しん)による自主公演。今年度の集大成として、メンバー一人一人の想いと感謝の気持ちを、強く優しく響く音色にのせ、全身全霊でお届けします。	春	京都造形芸術大学和太鼓研究センター TEL 075-791-9145(平日10時~18時)	入場無料
	8(木)~15(木)			舞台芸術研究センター主催 ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演 「恋する虜」のためのワーク・イン・プログレス 「ジュネへ応答する8日間」	参加アーティスト：岩下徹、砂連理、白井剛、隅地菜歩、寺田みさこ、山田せつ子(以上、振付家・ダンサー) 伊藤高志(映像作家)、杉山至(舞台美術家)、ワークショップ参加メンバー 他	S	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	※詳細は問合せ先へ (2007年1月中旬決定予定)

2007年1月~3月 京都芸術劇場スケジュール

凡例 — 春 春秋座公演 S studio21公演 指定席 自由席 電子チケットぴあ取扱 <http://t.pia.co.jp/> 未就学児の入場も可
*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金 *ユースとは、学生または25歳以下対象

チケットお問合せ先
京都芸術劇場チケットセンター ... TEL: 075-791-8240 (営業: 平日10:00~17:00/公演開催日)
 E-mail: ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学
京都芸術劇場
 Shunjuza / Studio 21
 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
 tel 075-791-9437 fax 075-791-9438
 URL <http://www.k-pac.org/>

